

talk! talk! talk! 女優・佐伯日菜子さん



女優 佐伯日菜子さん

デビュー以来、数多くの作品を通して見る人を魅了してきた女優・佐伯日菜子さん。2002年に横浜F・マリノスの奥大介選手と結婚し、現在二女の母である。インタビュー中、同席した次女の萌奈ちゃんに何度もやさしく話し掛ける佐伯さん。今は子育ての大変さばかりを実感しているそうだが、いつか今が幸せだったと感じたいと話していた。趣味のカメラで子供を撮影しているという佐伯さんに写真の話から家族、仕事の話などたくさんエピソードを語っていただいた。

プロフィール

さき・ひなこ。1977年、奈良県生まれ。1994年、映画「毎日が夏休み」で女優デビュー。その年の日本アカデミー賞新人賞、山路ふみこ賞新人賞などの各新人賞を受賞。その後、映画「エコエコアザラク」「らせん」やドラマ「ガラスの仮面」(テレビ朝日系)「アナザヘヴン」(テレビ朝日系)など女優として数多くの作品に出演、さらに「ウルルン滞在記」(TBS系)や「とんねるずの生でダラダラいかせて!」(日本テレビ系)などドキュメンタリーやバラエティ番組など各方面でも活躍する。2002年5月に、2003年から横浜F・マリノスのチームキャプテンを務めているMFの奥大介選手と結婚。同年10月に長女可鈴ちゃんを出産。03年8月には次女萌奈ちゃんが誕生、二児の母となる。今春より徐々に仕事を再開し、コラムやコメントの執筆、さらに雑誌、トークショーやバラエティ番組などへ出演している。7月には女優復帰作「約束」で、出産後初となる主演映画の撮影に挑んだ。

風景写真を断念して撮り始めたのは 人から見れば「何を撮っているの？」な写真

以前から写真を撮る機会が多かったそうですね。

ただのスナップ写真ですし、ものすごく下手なんですけどね、撮るのが好きなんですよ。

いつ頃から写真が好きになったんですか？

大人になってからですけど、いつ頃だったかな？ 事務所の社長が写真が好きで、その影響もあったんだと思うんですけど、独身の頃からすごく好きで、いつも持ち歩いていましたよ。それで、街で見かけた面白いもの、変なもの、人とか造形物とか、そういうのばかり撮っていたんです。人から見ると、何そんなもの撮っているの？ っていうものばかりだったみたいなんですけど(笑)。

たとえばどんなものを撮影されていたんですか？

表参道に真っ赤な外車が止まっていたんですけれど、その前で記念写真を撮っている観光客の様子を撮ってみたい。だってあたかも自分の車みたいに撮っているから、なんだかほほえましいなあって、そういうのが好きなんです。

あと、これは自分への戒めだったんですけど、家でやかんを火にかけていて、ちょっと目を離してしまったら、すごく熱くなってしまったんですね。そのやかんをまな板の上に置いたんです。そうしたら焼けちゃったんですよ、まな板が！ ものすごくびっくりして、もう二度と火をかけたままだどこかに行ってしまうかと思ってそのまな板の写真を撮って、台所に貼っておいたんです。でも、人から見たら、何？ この焦げたまな板は？ って(笑)。

始めから感動が伝わるような写真を撮るというのは、なかなか難しいかもしれないですね。

本当に難しい！ 見たままを撮るっていうのが実は一番難しいんだと。

1年ぐらい前に家族で温泉に行ったとき、お食事が懐石で、すごくおいしいので全部写真を撮って、メニューも一緒に撮ってひとつひとつ並べてアルバムに入れておいたんです。この間たまたまそのアルバムが出て来て見たら、おいしさとか匂いとか、まったく伝わってきませんでしたね(笑)。その味すら思い出せないほどで.....せつなくなりましたよ。

たとえば、ちょっと高いカメラを買ってみようとか、練習して撮れるようになるぞ！ みたいなことは.....

ああ！ それはまったくなかったですね(笑)。不器用なので、それは絶対無理だなと。撮るのが単純に好きなので、撮って満足っていう感じなんです。



子供が生まれてからは 親バカ写真家に転向!?

お子さんが生まれてからは、子供を撮ることも多いのではないですか？

はい、実はもう子供ばかり撮っています。ずっと変なものばかり撮っていたのに、結婚して子供が生まれてから、ずーっと子供ばかり撮っている自分に気づきまして、自分でも意外でした。親バカ状態ですよ。

こんなに撮るとは思わなかった？

ええ、だからちょっとショックでした(笑)。あまりにもたくさんの写真を撮り過ぎて、どこにその写真があるのかもわからないほどに収集がつかなくなってしまっているんですよ。アルバムを作ろうと思っても、多すぎて、どの写真を載せていいのか選べないんです。

普段から、かなり頻繁に撮られているんですね。

そうですね。家でも、外でも、何かあるとって感じです。何でも残しておきたいという気持ちがあるんでしょうね。洋服が好きなので、新しい洋服を買ったと必ず着せて撮るんです。(萌奈ちゃんを見ながら)「萌ちゃん、一瞬だもんね、この洋服着られるのは。来年になると大きくなっちゃうから、今しかこの洋服は着られないんですよ。」

やっぱり、子供二人を見ないといけないから、前のように街で気になったものを撮るってことはできなくなりますよね。これまで



今年のひな祭り。行事ごとになると、ついたくさんの写真を撮ってしまうそう。撮影慣れしている萌奈ちゃんはカメラ目線もお手のもの

は周りの景色がよく見えて、こんなところにこんな面白いものがあるっていうのを発見できたのに、多分、今はそれをすごく見逃していると思うんです。それは少し残念ではありますね。

そのかわり、お子さん二人を撮る回数が増えてしまったと。

でも、人間を撮ったほうがぜんぜん面白いです！ 周りの"ウケ"も全然違うんですよ。前は、私は最高に面白いものを撮ったと思って全然反応がなかったり、逆に、全然面白くない写真に反応されたりしていたんです。でも子供の写真は無条件にみんない反響してくれるじゃないですか。お世辞だとは思いますが、かわいい！って（笑）。

カメラはデジタルカメラですか？

昔はフィルムだったんですけど、今はもっぱらデジカメですね。やっぱり便利です。すぐ見られるし、いらないうちのものは消せますから。子供が小さいので今は大きいカメラを持つ余裕はないですし、時間もなくてカメラ屋さんに行って行くのも大変なことが多いので、自宅プリントできるのが楽なんです。



お得意(?)のピアノを弾く長女可鈴ちゃん。
この衣装は佐伯さんが3歳の時に着たものだそうだ

予想以上に辛い子育てを通して 我慢すること、耐えることを知った

上のお子さんが2歳、下のお子さんが1歳、可愛くて仕方ない時期ではないですか？

そうですね、でも、もう手一杯なんです。毎日バタバタ走り回って、今は全く余裕がないんです。

子育ての楽しみというよりは、大変さが上回っている感じでしょうか。

そうですね。楽しみを感じる間もなく、てんやわんやで毎日過ぎて行きますから。当たり前なんですけど、子供が生まれてからは制限されることが多くなりますよね。たとえば、映画を観に行けなとか、自分の時間が持てないとか、もちろん仕事も思うようにはできなくなりますし。この仕事しかなかったなあっていうものもありましたし、正直、損したなって思うこともあるんですよ。でも、物事には悪い面もあれば、必ずいい面もあるじゃないですか。家族を持って広がった仕事もありましたし、今は大変だって感じることも多いですが、プラスマイナス0かなって思っています。



妹のためにミルクを作っているつもりのお姉ちゃん。
「世話焼きなので色々手伝わおうとするんです。
でも、いつも"つもり"だから結局散らかして怒られちゃう（笑）」

結婚、出産を経て、ご自身で変わったなと思うところはありますか？

実は子供が嫌いだったんです。こんなこというのも変ですけど、わが子ながらどうかって思っていたんですが、すごく可愛くて、子供が好きになりました。よかった（笑）。あとは、子育てを通じて、耐えることを知ったんじゃないかと思えます。独身のころはわりと自分勝手な人間だったんです。でも今は自己中心にならないようにしていますし、色々なことに寛容になれるようになったと思います。

家族を持って、自然とそう思えるようになった？

いや、我慢している部分はありますよ。でも我慢ばかりで嫌だっていうのではなくて、我慢もしようがないことなんだと思えるようになったんです。しょうがないっていう時点でダメなのかもしれないですけど.....大人になるってどういう意味なのかわからないんですが、人のことも考えられるようになったっていうのは、子育てをして少しは大人になれたということなのかな？ うーん、難しいですね。

子育ての大変さというのは、実際やってみないと、どれほどのものなのかわからないのでしょうか。

本当にそうだと思います。子育てももっとのびのび育てたいとか、あんまりダメダメって言わないようにしようとか、いろいろ理想はあるんですけど、なかなかそこに近づけないですね。ついつい厳しくなってしまうんですよ。怖いお母さんだと思います、私は（笑）。



「お調子者でめげない性格がよく出ている」という一枚。
怒られても萌奈ちゃんに嫌がられても、また平然とお手伝いをするそうだ

結婚、出産を経て 女優としてこれからが楽しみ

女優になるきっかけは何だったのですか？

小さい頃はパレリーナになりたいとパレエばかりやっていたんですが、ちょうどその夢に疑問を抱くようになった頃かな、スカウトされてモデルのような仕事を始めるようになったんです。そうしているうちに「毎日が夏休み」という映画のオーディションがあるからって言われて受かって。だから、ずっと憧れだったとか、映画に出られて感激！ という感じではなかったんですよ。演技だって、それまで勉強もなにもしていませんでしたし、本当に学芸会レベルでしたよ。お芝居を見たりはしていましたが、やりたかったことはなかったです。

結婚や出産を機に、辞めようとは思わなかったんですか？

それは思いませんでした。多分、デビュー作の「毎日が夏休み」の撮影現場の雰囲気がすごくよかったから、この仕事ってすごくいいものだなって思えたんだと思うんです。もし、最初の映画で最悪だと思っていたら、おそらくすぐに辞めていたと思います。

女優という仕事が合っているんですね。

いや、実は今でもこの仕事が合っているとは思ってないんですよ。不器用だし、演技もうまくないし（笑）。でも、それでもここまで続けているっていうのは、この仕事に何か魅力を感じているんだと思います。

今後も女優として、仕事を続けていられるんですね。

今度、子供が生まれてから初めて女優のお仕事をすることになったんです。結婚前とは自分自身も、自分をとりまく環境も変わっていますからね。自分がスクリーンにどう映っていくんだろうとか、あとはものすごく現実的な話だと、子供たちをどうするか、どこにどう預けて、それを子供たちがどう受け止めるのかとか。そういうことをふまえて、これからどうなるのか、自分がどう思うのか、どう変わったのか、心配でもある楽しみでもあるんです。

余裕のない慌ただしい毎日が すごく幸せだと思えるかもしれない

これから、お子さんの成長と共に写真を撮る機会ももっと増えてゆくのでしょうか。

そうですね。行事ごととも増えるだろうし、これからたくさん楽しみがあるでしょうね。旦那は子供の運動会とクリスマス会には絶対に出ると意気込んでいました（笑）。本当に子供が好きなんですよ。

子煩悩なんですね。

もうすごいです！子供も今、パパ、パパって感じだから、帰ってくるとずっと「だっこして」ってなっちゃうんです。私だったら、もううるさい！ってイライラすることもあるんですけど、彼はそんなこと言わないし、疲れていても子供に八つ当たりは絶対にしない。お風呂も必ず入れてくれるし、そういうところはすごいなあって、よく面倒見てくれていると思います。でも、振り回されている部分もあるんですよ。泣いているとすぐジュースやアメあげちゃうし。子供のわがママをすぐ聞いてあげちゃうんですよ。そこはいくらやめてって言ってもダメなんです。ダメパパです！

ご家族のお話をされる時、とても幸せそうな顔をされていますね。

そう見えますか？全然幸せではないですよ（笑）！渦中にある人間としては、幸せだって思える時間も毎日過ぎ去っていますから。振り返ってみると、あれが幸せと呼べる時間だったのかなって思ったことはたくさんあるんですけどね。赤ちゃんが生まれた時もすごく大変だったんですけど、今思うと幸せだったなとか……でも、独身のときに、暑い日にクーラーを効かせた部屋で毛布をかぶって寝ていたときのことを思い出して、今は絶対にできませんから、あの頃は幸せだったなあと思うこともありますし（笑）。

では、もう少し時間が経ったときに、今の幸せを実感できる時が来るかもしれませんね。

そうですね、すごく幸せだったんだけ思えるかもしれない。今は大変だとか、そういうネガティブな感情を持つことの方が多いので、もっと先の将来、ポジティブになれていたらいいですね。自分はどんなふうになっているのか想像もつかないですけど、楽しいことが周りにいっぱいあればいいと思います。

でも本当に、大変、大変と言いつつもすごく明るくていらっしゃるから、幸せそうだと素直に感じますよ。

本当ですか？ 私はいつも隣の芝生が真っ青に見えるんですけどね。

あ、でもそうやって「私幸せじゃないわ」って言えちゃうことって、実は幸せなのかもしれないですね。だって、本当に辛いことや不幸なことってこうやって話せないですよ。そうか、私大丈夫かも、幸せなのかも。……なんだか自己解決してしまいましたね、すみません（笑）。



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.